

あらためまして

「高野長英記念館」紹介

1 高野長英記念館の沿革

『高野長英伝』、『高野長英全集』を刊行した高野長運(長英のひ孫)を父にもつ高野長経が、1966年に高野長英顕彰会の初代会長となり、記念館建設運動を推進しました。1968年、顕彰会名で記念館建設基金を市に指定寄付し、記念館建設促進委員会が結成され、1971年11月1日に高野長英記念館が開館しました。

当記念館はこうした関係者の方々や、貴重な資料を提供して下さった高野家をはじめ多くの皆様のご協力のおかげで、運営を行うことができます。そして、幕末の先覚者である高野長英の偉業を顕彰し、その遺品や文化財を収集・保存・展示し、後世に末永く継承する事業を行っています。

2 真理を追い求めた高野長英の生涯

高野長英は1804(文化元)年、現在の奥州市水沢吉小路に生まれた江戸後期の蘭学者です。17歳で江戸に出てオランダ医学、さらに長崎でオランダ商館付医員シーボルトに医学と蘭学を学びます。その後、江戸に戻り、大観堂という塾を開いて、医療と翻訳を行いながら当時最新の学問であった蘭学の

知識を生かし、庶民の生活や衛生の向上に努めました。

1837(天保8)年に幕府が異国船を打ち払うと、長英は『夢物語』を著し、提言を行います。幕政を批判したとして終身刑に処されます。その後、火災に乗じて脱獄すると、数多くの門人や愛媛宇和島藩主に守られながら、日本各地を潜行し、医療、天文学、兵学などの著訳に力を注ぎます。

1850(嘉永3)年10月30日、江戸の隠れ家で幕府の役人に捕らわれた長英は47歳で最後を遂げます。日本の夜明け(近代化)のために捧げた生涯でした。

令和8年度

企画展のご案内

第1回企画展

「水沢の名医高野長閑の本棚

～高野家に伝わる資料より～

4月21日～8月23日

◇春の重要文化財展示

4月21日～5月10日

□第1回企画展解説会

4月25日・5月5日 13:30～

第2回企画展

「民のために生涯を捧げた男たち

—寿庵と長英、それぞれの道—

8月25日～11月29日

□第2回企画展解説会

10月24日 13:30～

◇秋の重要文化財展示

10月6日～11月8日

第3回企画展

「箕作省吾の見た世界

—江戸の世界地図を通して—

12月1日～4月18日

□第3回企画展解説会

2月20日 13:30～